

経ヶ岳へ(個人山行)

(報告) Y 澤

◎山行期日：2018年8月19日(日)

◎メンバー：Y 澤(L)、K 田

8月の下旬に中央アルプスの北部、というよりは中央アルプスの山塊の北側に独立峰として聳える経ヶ岳に登った。今回はその山行記である。

山へ行く時によく中央自動車道を北上するが、その際、左の車窓に中央アルプスが現れる。越百山から始まり、特徴のある宝剣岳に至る稜線に目を奪われる。宝剣岳を過ぎると、間もなく稜線は下降し山塊はなくなる。その後、さらに北上すると一つの山が現れる。それが経ヶ岳である。標高2,293m、その山容は大きく端正でいつも気になっていた。過去に一度登ったことはあったが、もう数十年前のことで、確か山頂付近でカモシカに出逢った覚えはあるが、その他の記憶は全くない。ルートは長く、ひたすら上り、ひたすら下りるという体力勝負の山、展望はほとんどない山というイメージがあり、気になってはいてもなかなか腰が上がりなかった。

登山口の仲仙寺は、室町時代に慈覚大師が開山した由緒ある古刹らしい。霊木にお経を写書してこの寺に納め、そのことから「経ヶ岳」という山名がついたらしい。この仲仙寺から山頂までの標高差は1,000m以上、コースタイムは上り4時間30分、下り3時間となっている。



登山口の仲仙寺

伊那 I.C. で自動車道を下りて仲仙寺の境内に駐車し、6時に歩き始めた。天気予報ではきょうまでは良い天気とのことだったが、空には割と多くの雲が広がっていた。そのおかげで強い日差しからは逃れられた。そして高度が上がるに連れ、周囲はガスに覆われ出した。

1時間20分ほどで、分岐のある四合目に着いた。ここまで「合目」の標識はなかったが、ここから先は一合目ごとに標識が立っていた。五合目は開けた平地が広がっていた。六合目の辺りは岩尾根が続いていた。ここから七合目までは、時折急な勾配が現れた。

七合目はちょっとしたピークになっていた。四等三角点の標示の他に「蔵鹿(ソウロク)の頭」という表示もあった。東方面は高い木々がなく、晴れていれば展望があるだろうと思わせたが、周囲はガスに覆われたままだった。そしてここには分岐があった。どちらも下っていたが、鋭角的に進む右のルートと左に進むルートに分かれていた。右に進むルートの出だしが幾分草に覆われていたので、少し迷ったが左のルートを進んだ。歩き始めようとしたところに単独行者がこのピークに登って来た。簡単に挨拶をして出発した。道はずっと下りが続き、道の表面に枯れ葉がたくさん落ちていて、この道は余り歩かれてないなと思った。人気のない山にしてもちょっとおかしいと感じ、一旦戻ることにした。まだ休んでいた先程の単独行者に聞くと、右の道を示してくれた。左の道を下ると恐らく権兵衛峠に出る。自分たちは権兵衛峠から上り、既に山頂へ行って来て、今から

また権兵衛峠へ下りるのかと思っていたと言う。

右の道を少し下ると明瞭なトレースが続いていた。そして再び上りになった。八合目に着く手前の急傾斜には、背丈が割と高い濃いピンクの花が群生していた。ヤナギランである。その時、上から単独行者が下りて来て、八合目から少し上に行くと言っていると教えてくれた。八合目もピークになっていて展望の良さそうな地形だったが、周囲は白い世界だった。しかしここはヤナギランの他にも幾多の花々が咲いていて、綺麗な場所だった。

八合目から道はしばらく下っていた。鞍部から再び上りになったが、この辺りからガスは途切れて右側に展望が広がった。雲海の彼方に南アルプスが浮かんでいた。そしてお花畑が広がっていた。そのお花畑は自然のまま、お花畑のヤブこぎとなった。さまざまな色の花が茂っていた。各地の山で「〇〇山を守る会」という団体が登山道の整備という名目で、道の脇の草刈りをして、それはそれで歩きやすいのだが、このように何もせずに自然のままの姿は、とても好ましく思った。「経ヶ岳」のイメージが変わりつつあった。



雲海に浮かぶ中央アルプス

再び樹林の中に入り展望は閉ざされた。急な傾斜を上り切ると九合目だった。ここには「奥の院跡地」という標識があり、石仏が祀られていた。再び少し下り、また上って行く。ただひたすら上り、そして下る山だと思っていたが、七合目からはアップダウンが続いた。九合目から山頂までは、樹幹の間から雲海に浮かぶ中央アルプスが眺められた。



経ヶ岳の山頂

10時5分、「経ヶ岳」の山頂に着いた。信仰の山らしく山頂には石仏が祀られていた。

下山の途中、八合目でコンロを出してコーヒーを飲んだ。周囲は白く展望はなかった。赤トンボがたくさん舞っていた。暑い夏でも季節は巡っている。

《コースタイム》

6:00 仲仙寺→8:40 七合目→10:05 経ヶ岳山頂着~10:15 山頂発→10:55 八合目着~11:20 八合目発→13:30 仲仙寺